

たがうことのない 神様を信じ従いなさい

ヨシュア記23章1～16節
2021年6月20日
松田 基子 師

さて、私たちは、何のために生まれて来て、何を成し、何を残して逝くのでしょうか。神様は人間に命と使命を与え、この世に送り出し、神様の御計画である人類救済史に添って、一人ひとりの人生を導いておられます。私たちは、神様の、この歴史観が分かる時に、自分の人生の意味を見出す事が出来、人生を精一杯生きることが出来ます。その良きモデルが、今学んでいますヨシュア記の主人公ヨシュアです。ヨシュアは、若い時からモーセの従者としてモーセに仕え、信仰を受け継ぎ、神様に捧げ尽くした生涯を送りました。

ヨシュアが、最初に聖書に登場するのは、出エジプト記17章です。出エジプトを果たして来た、イスラエルの民に、荒れ野で最初に戦いを挑んで来たのは、アマレク人でした。モーセは若者ヨシュアを戦いの指揮官に立て、最前線で戦わせ、モーセ自身は、丘の上で、アロンとフルを支援に、手を挙げて祈り続けました。その結果ヨシュアは、アマレクに勝利をしましたが、神様は出エジプト記の17章14節で、

「主はモーセに言われた、
『このことを文書に書き記して、記念とし、
また、ヨシュアに読み聞かせよ。わたしは
アマレクの記憶を天の下から、完全に 拭
い去る。』と」

と命じておられます。神様は、ヨシュアが決して自分の力を誇る事が無いように、戦いは、神様の力に依る勝利である事を教えられました。

一行はシナイ山に到着し、神様はイスラエルに律法をお与えになるために、モーセをシナイ山の頂きに呼ばれました。ヨシュアはその時、従者として、モーセに従いました。モーセは40日、40夜山にいました。そのために、山の麓で待つ民は不安になり、若い雄牛の鑄造を造り、これに平伏し、献げ物を供え、民は座って飲み食いし、立って戯れたのです。モーセは民を罰する一方で、神様に対しては、必死にだめ、民の赦しのために、

「それがかなわなければ、どうかこのわたしを
あなたが書き記された書の中から消し去って
下さい」

と、自分の全存在を捧げて執り成しました。ヨシュアは、神の僕である、**真のイスラエルの指導者の姿**を、モーセから学びました。私たちも周りの、良き信仰者から、神様に従う姿を学ばなければなりません。

さて、一行は、遂に約束の地、カナンへの入口、パランの荒れ野、カデシュに到着しました。モーセはカナンの地の偵察に、部族代表12人を40日にわたって偵察に向かわせました。カナン人の生活は、奴隷から荒れ野生活をしてきた、イスラエルの生活水準とは、比べ物になりませんでした。堅固な城壁を巡らして、文化的な生活をしており、そのあまりの違いに、自分たちが力無く、みすばらしく見えた10人は、民数記 13章32節で、

「我々が偵察して来た土地は、そこに住み着こうとする者を食い尽くす様な土地だ。我々が見た民は皆、巨人だった。そこで我々が見たのはネフィリム(巨人)なのだ。アナク人はネフィリムの出なのだ。我々は、自分がイナゴのように小さく見えたし、彼らの目にもそう見えたに違いない。」

と絶望的、悲観的な報告をしました。

民は不安になり、モーセに逆らった時、ヨシュアと カレブは民数記14章7節で、

「われわれが偵察して来た土地は、とてもすばらしい土地だった。もし、我々が、主の御心に適うなら、主は我々をあの土地に導き入れ、あの乳と蜜の流れる土地を与えて下さるであろう。ただ、主に背いてはならない。あなたたちは、その住民を恐れてはならない。彼らは我々の餌食にすぎない。彼らを守る者は離れ去り、主が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない。」

と力強く訴えました。ここには、ヨシュアがこれまで、神様に信頼し、神様の御業を見て来た、神様への確信が、現されています。

神様に信頼しなかった第一世代は、その後の40年の荒れ野の放浪で、自分の思い込んだ生き方に従って、荒れ野で死に絶えなければなりません。モーセも民の罪を負って、共に召されて行きました。神様を信じ、御言葉に賭けた者だけが、それを得るのです。神様はヨシュアをモーセの後継者にお立てになりました。神様はヨシュアに、ヨルダン川西岸カナン地方の土地取得と、残りの9部族半への土地の割り当てを命じて、ヨシュア記1章5節から

「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てる

こともない。強く雄々しくあれ。あなたは、わたしが先祖たちに与えると誓った土地を、この民に継がせる者である。ただ、強く、大いに雄々しくあって、わたしの僕モーセが命じた律法をすべて忠実に守り、右にも左にもそれではならない。そうすれば、あなたはどこに行っても成功する。この律法の書を、あなたの口から離すことなく、昼も夜も口ずさみ、そこに書かれていることをすべて忠実に守りなさい。そうすれば、あなたは、行く先々で栄え、成功する。わたしは強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」

と力づけられました。

ここには、神様の力強い守りと勝利、祝福の言葉が溢れています。ヨシュアはその神様の愛顧に応じて、律法を守ることに、全力を尽くしました。神様は、約束の通り、全イスラエルを先住民が予想も出来なかった奇跡を起こして、ヨルダン川を渡らせ、また、イスラエルの力では攻め落とす事の出来ない、エリコの城壁を、奇跡をもって崩して下さいました。しかし、神様はご自身の言葉に従わなかった者を見逃されることはありませんでした。

エリコの次に攻め登ったアイの町は、アカンが、エリコの全てはカナンの初穂として、神様に捧げよとの命令に背いて、美しい上着と金と銀を自分のものにして、隠してもっていたために、戦いに敗れてしまいました。ヨシュアはイスラエルの責任者として、罪を見逃す事は出来ませんでした。アカンの処罰後、アイを滅ぼす事ができました。その後イスラエルの征服圏外の住民だと偽って和睦を求めて来た、ギブオン人に対して、ヨシュアは主の指示を求めないで、かれらと和を講じてしまいました。ここが、モーセにおよばなかったヨシュアの不覚でした。しかし、主の前に誓った誓いをヨシュアは守りました。そのことは、エルサレムをはじめ、5人の王との戦いに繋がり、神様はその戦いに雹を降らせて助けられました。

ヨシュア記12章には、ヨルダン川の東側で征服した王達2人の名と、その地は、ルベン人、ガド人、マナセの半部族に領地として与えられたことが記されています。ヨルダン川の西側では、31名の王達を征服し、その地を残りの8部族とマナセの半部族に分配したことが記されています。

レビ族は、神様に仕え、全イスラエルに律法を指導する務めを託されて、全領地の中に48のレビの町が設けられました。ヨシュア記13章1節を見ますと、

「ヨシュアが多くの日を重ねて老人になったとき、主は彼にこう言われた。

『あなたは歳を重ねて、老人になったが、占領すべき土地はまだ沢山残っている。』

とあります。まだまだ多くの町が、未征服の儘(ま)でした。各部族はこれから、割り当てられたところを、神様が自分たちに与えられた嗣業の土地として、神様に聴き従って、戦い取り、偶像を一掃して、神様の律法に聴き従う、神の国を築いて行く責任がありました。

一方ヨシュアは、各部族分配を終えると、ヨシュア記22章1節で、

ルベン人、ガド人、マナセの半部族を呼び寄せて、彼らのモーセへの忠誠、同朋への愛と支援に感謝し、22章4節で、

「あなたたちは主の僕モーセから受けたヨルダン川の東側にある自分の所有地の天幕に帰るがよい。ただ主の僕モーセが命じた戒めと教えを忠実に守り、あなたたちの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めを守って、主を固く信頼し、心を尽くし、魂を尽くして、主に仕えなさい。」

と命じて彼らを祝福し、ヨルダン川の東側へと送り帰しました。

ヨシュアは神様から自分に与えられた使命を、生涯を掛けて力の限り、精一杯努力して、やり抜いて来ました。彼は、今や老人となり、自分の最後の使命を果たすべき時が来たことを自覚しました。そこで、23章2節を見ますと、

「長老、長、裁判人、役人を含む全イスラエルを呼び寄せて、言った。

『わたしは年を重ね、老人となった。

あなたたちの神、主があなたたちのために、これらすべての国々に行われたことを、ことごとく、あなたたちは見て来た。

あなたたちの神、主は、御自らあなたたちのために戦って下さった。』

と言っています。

今朝交読しました、詩編103篇の2節には、

「わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何一つ忘れてはならない。」

と命じられています。人間の陥り易い罪、それは、忘恩です。人間は特に神様に対して、忘恩の罪を犯します。人間の自己中心は、自分に利する事を受けた時は喜びますが、すぐ

にそれを当たり前としてしまい、恩を忘れてしまうのです。そのために感謝は無く、不平不満ばかりが出てきます。イスラエルの第一世代が、真にその通りでした。ヨシユアは第二世代もそうなるのではないかと案じていました。エジプトの奴隷から解放されるという、自分たちの力では成し得なかった事を、神様は先祖との約束の故に、奴隷の身から救出して下さったばかりか、40年もの荒れ野の生活を養って下さり、約束通り、カナンの地に導き入れ、安住の地を下されたのです。戦う力の無い、荒れ野の放浪の民が、その恵みに与ったのは、

『神様御自身が、戦って下さった』

その一言に尽きるのです。この恵みを決して忘れてはなりません。

ヨシユアは与えられた土地について、4節に、
「見よ、わたしはヨルダン川から、太陽の沈む大海(即ち、地中海)に至る全域、すなわち未征服の国々も、既に征服した国々もことごとく、くじによってあなたたち各部族の嗣業の土地として分け与えた。」

と言っています。

これがヨシユアの神様から与えられた使命でした。ただ、ここに記されていますように、未だ、未征服の国々は多く残っていました。しかし、神様の側では、既にその土地は、イスラエルに与えておられました。そこでヨシユアは5節で、
「あなたたちの神、主は、御自ら彼らをあなたたちのために押しつけ、あなたたちのために追い出される。あなたたちの神、主の約束されたとおりに、あなたたちは彼らの土地を占領するであろう。」と、

もう勝ち取った確信に満ちて言っています。神様はあなたがたに、それ程大きな恵みを与えて下さるのだから、

「右にも左にもそれることなく、モーセの教えの書に書かれていること(即ち律法)を忠実に守りなさい。」

と繰り返し命じました。

しかし、ヨシユアが最も心配した事、それは、7節の

「あなたたちの内に今なお残っている、これらの国民と交わり、その神々の名を唱えたり、誓ったりしてはならない。それらに平伏し拜んではならない。」

この事でした。神様は何故イスラエルの民を、エジプトから救出し、カナンの地まで連れて来られたのでしょうか。それは、カナンの地が、人間の我欲、欲望を実現させる偶像の神々に溢

れ、支配され、弱い者が踏みにじられる、罪と悪の世界であったために、それらを一掃して、イスラエルによる、神様に聴き従う神の民の国を築くためでありました。

そのために神様は十戒を与え、出エジプトの20章2節で、

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。あなたは、わたしをおいて他に神があってはならない。」

と命じられました。このように命じられたのは、主なる神、ヤハウエ、即ち、あるものをあらしめる創造主なる神様だけが、真の神様であり、人間を真に生きるものとなさるお方だからです。偶像は欲と罪に誘うだけですが、その誘惑はとも強いのです。

その誘惑に負けないために、ヨシユアは、8節で、

「今日までしてきたように、ただあなたたちの神、主を固く信頼せよ。」

岩波訳では、

「あなた方の神、ヤハウエに聴き従わねばならない。」

別の訳では、

「執着せよ、」

と命じました。よそ見をしないで、しがみついていることです。今まで、神様は強大な国を追い払ってくださり、立ちはだかるものは居ませんでした。ですから、これからも10節に、

「あなたたちは一人で千人を追い払える。」

と、誇張した言い方ですが、神様の働きの大きさを表した表現です。

「あなたたちの神、主が約束されたとおりに御自らあなたたちのために戦ってくださるからである。」

と断言しています。

11節に、

「だから、あなたたちも心を込めて、あなたたちの神、主を愛しなさい。」

神様を愛し従うことは、人間の使命です。しかし、ヨシユアは、イスラエルの第一世代の不信仰と我が儘を、経験して来ただけに、民への心配がありました。12節に、

「もし、あなたたちが背いて離れ去り、あなたたちのうちに残っているこれらの国民となれ親しんで、婚姻関係を結び、向こうに行ったり、こちらに迎えたりするなら、あなたたちの神、主がもはや、これらの国民を追い払われなことを覚悟しなさい。彼らはあなたたちの畏

となり、落とし穴となり、脇腹を打つ鞭、目に突き刺さるとげとなり、あなたたちは、あなたたちの神、主が与えられたこの良い土地から滅びうせる。」

と警告を与えました。

モーセも申命記7章3節で、
「彼ら(先住民)と縁組みをし、あなたの娘をその息子に嫁がせたり、娘をあなたの息子の嫁に迎えたりしてはならない。あなたの息子を引き離して、わたしに背かせ、彼らは遂に他の神々に仕えるようになり、主の怒りがあなたたちに対して燃え、主はあなたを速やかに滅ぼされるからである。」

と警告を与えています。結婚は一番相手に同化していく道です。

偶像は人間の本能、欲望の投影から生まれたものですから、異教徒と結婚することによって、偶像は刺激的で、欲望が引き出され、すぐに虜になってしまいます。しかし、それは、鳥や動物が罠にかかり、落とし穴に落ちるのと同じで、命取りとなるのです。神様に背くこと、神様を捨てることは、自ら滅びを選ぶことです。後代、ソロモン王は、多くの外国の女性を迎え、国は偶像で乱れ、王国は遂に分裂して行きます。

ヨシュアは今や、自分の使命を全うして、世を去る時を悟り、最も大切なこととして、14節に、
「あなたたちは心を尽くし、魂を尽くしてわきまえ知らねばならない。あなたたちの神、主があなたたちに約束されたすべての良いことは、何一つたがうことはなかった。何一つたがうことなく、すべてあなたたちに実現した。あなたたちの神、主が約束された良いことがすべてあなたたちに実現したように、主はまた、あらゆる災いをあなたたちにくだして、主があなたたちに与えられたこの良い土地からあなたたちを滅ぼされる。もし、あなたたちの神、主が命じられた契約を破り、他の神々に従い、仕え、これに平伏するなら、主の怒りが燃え上がり、あなたたちは与えられた良い土地から、速やかに滅び去る。」

と警告を与えられました。

『何一つたがう事無くは』は岩波訳では、
「一つとして成就しなかったものは無い。」と訳されています。神様は寸分たがわず、約束を実現して下さったのです。神様は、それ程、必ず約束を守って下さるお方ですが、それは、反面、

『イスラエルが背いたならば、

厳しい審判を受ける』
と言うことです。

人は、神様に対して、自分に都合が良い、自分に利する事のみを求めます。神様の愛に、甘える身勝手さをもっています。ヨシュアはイスラエル第一世代に、その姿を見てきて、これからのイスラエルを案じないではいられませんでした。しかし、彼がいつまでも地上にいて、見張っている事は出来ません。ヨシュアもまた、イスラエルに語るべき事を語って、主の御許に召されて行かなければなりません。彼は命のある限り次世代に対して、何一つたがうことの無い神様を信じ、従う事を命じ続けたのでした。

私たちも、どんな人生を送るのでしょうか。神様の人類への最大の約束は、**救い主をお与えになる事**でした。神様は力強い御手により、私達にも約束の救い主、イエス・キリストに出会わせて下さり、救いをお与えになりました。私たちの人生に、神様は何一つ約束をたがう事無く、導き守り続けて下さいました。私たちは、この信仰以外に、命に至る道を知りません。地上の旅路を歩く中で、多くの誘惑に遭います。救い主、**イエス・キリストをお与えになった神様を、信じて生きる所にのみ、永遠の命が約束**されています。私たちの**使命**もまた、後世に対して、たがう事の無い**神様を信じ、従いなさいと言**い続けることではないでしょうか。ヨシュアのように、神様にしがみついて、神様に従い続ける生涯を送らせていただきましょう。

お祈りを致します。
愛と憐れみに富まれる天の父なる神様

あなた様は罪深い人類を見捨てず、救い主を与えるお約束を下さり、寸分違わず、御子イエス・キリストを与えて、救いを成就して下さいました。

この一事を後世に伝えて行くことこそ、私たちに与えられた使命です。一途にご自身を信じ、イエス・キリストを語り継いで行く者とならせてください。

イエス・キリストの聖名に依ってお祈りを致します。
アーメン。